大人の
社会見学

鹿屋の地で育まれた
名品・名産・名所などの
よかもんをご紹介

鉤引き祭

中津神社
上高隈町759

高隈地区に春を告げる伝統行事「鉤引き祭」。この祭りは五穀豊穣や林業の発展を願って毎年2月の第3日曜日に行われています。今回は「高隈中津神社鉤引き祭伝承保存会」会長の湯地定敏さんにご案内いただきました。

「この祭りは、鉤股状の雄鉤に二股状の雌鉤を絡ませて、上高隈と下高隈に分かれて綱引きのように引き合うもので、300年以上の歴史があり、市の無形民俗文化財にも指定されています。

昭和46年の鉤引き祭の様子

祭り当日は、早朝から山で雄鉤と雌鉤の切り出しを行います。切り出した鉤はトラックで中津神社近くまで運び、そこから人力で神社の境内まで運びます。神社下で一度休憩した後は、境内に着くまで鉤を下ろしてはいけないという昔からの決まりがあるため、1トン以上ある鉤をみこしの様に担いで、必死の形相で石段を駆け上がります。

境内に着くと『サヨンドシ』という鉤を高く持ち上げ地面に3回叩きつける儀式を行います。これは勝負前に勢いをつける意味と、大地の霊を呼び起こす意味があります。

その後、いよいよ鉤引きが始まるのですが、2つの鉤のかかり具合で勝敗が一気に決まることがあるため、駆け引きだけで20分～30分かかることもあります。鉤がかかると一斉に引き合いが始まり、3回勝負で先に2勝した地区がその年豊作になると言われています。一般の人も参加することができ、鉤を引いたり、鉤の枝を持ち帰ると一年間無病息災で過ごせると言われています。

高隈地区は昨年、台風16号による大きな被害を受けたため、今年の鉤引き祭にかける地元住民の思いは例年以上に強いものがあります。2月19日(日)には、多くの皆さんにお越しいただき、祭りの熱気と住民の復興にかけるパワーを感じていただけたらと思います。」

ナビゲーター
高隈中津神社
鉤引き祭伝承保存会 会長
湯地定敏さん